

湘紅会報 2020年5月 第4号

設立 1991年 会員 107名 会報年 2回発行

コロナ大遮断

総会中止について

酒井 尚平

総会中止・活動停滞：(コロナウイルスのため) 2020年3月総会(於・鎌倉二楽荘)は、4月に政府の緊急事態宣言を受け中止した。活動は停滞している。

2020年世話人：2月世話人会で下記の通り決めた。

代表世話人 酒井尚平

世話人 青山勝(湘遊会) 有地幸雄(万歩会)
芝崎暉夫(唄会) 高橋邦雄(囲碁会)
倉上雅彦(ゴルフ会) 宮田廣(酒悦会)
事務局：相田康宏 顧問：松本俊一郎

世話人の顔ぶれ



酒井尚平(代表)



青山勝(湘遊)



有地幸雄(万歩)



芝崎暉夫(唄会)



高橋邦雄(囲碁)



倉上雅彦(ゴルフ)



相田康宏(事務局)



宮田廣(酒悦)

3月総会準備のため、世話人会を2月に鎌倉で開きました。会場を小町の二楽荘に移したので、支配人と共に入念に打合せ、ところが翌週、コロナ感染拡大が急速に進み、経験のない恐怖を感じ始めました。総会は一年のお祭です。「開くか」「諦めるか」世話人会で話し合い、2月末、6月に延期、更に4月に緊急事態宣言が出るに及び、総会の中止を決めました。まことに残念でした。

予定表は、ずっと「空白」となり、私たちは、趣味、会合、ボランティアなど多くの日程が無くなり、閑居しています。万歩会の「花見」大船の玉縄桜を愛でられず、各部会例会はじめ、團十郎襲名公演、ロンドン美術展も見送り、今年は四季の変化を仲間と味わうことが出来ません。

世界を大きく変える「コロナ大遮断」が始まりました。国際緊張、覇権争奪、不況・格差拡大、大失業、争いが頻発するでしょう。終戦時の人口 25 億が現在 77 億、コロナ禍が地球環境の変化と人口減の引金になる予感がします。

平和ボケに慣れていた隠居人生、思いもよらず鉄槌を喰らいました。楽しむことを当然としてきた暮らしは、小さなウイルスに脅かされています。長期戦となるでしょう。

人生、輝きと失敗を経験します。コロナ禍のような負け戦は「我慢と苦笑い」で切り抜けましょう。光陰で人の情を知ります。頼りになるのは「人の縁」です。学縁、仕事縁、趣味縁、地縁など、不思議な力で結ばれています。本号の寄稿で、会員の多彩な横顔を知ることが出来ます。お楽しみください。湘南に住み、自然と地縁に恵まれる湘紅会、早く交流を再開したいと思います。

「Skype」や「Zoom」を使ってオンラインでバーチャル懇親会を楽しむ方も出てきそうです。

心身共に健康を維持し、来年の創立 30 周年総会で元気にお会いしましょう。ご自愛ください。(代表世話人)

事務局報告

新企画部（美術・歌舞伎・落語）を**湘遊会**と改名した。総会中止のため、「要覧」と**湘紅会報第四号**を5月に全会員へ郵送した。

会員数：万歩会 49 名・ゴルフ部会 32 名・酒悦会・7 名・囲碁会 8 名・唄会 18 名・湘遊会 25 名。

地区連絡員を新設

「鎌倉」長沼徹、「逗子・葉山・横須賀」雑賀邦行、「藤沢・茅ヶ崎」母里修司、「横浜北」川嶋寿彦 「横浜南」斎藤正視、「川崎以东」坂本仁司 の諸氏。

非常時の対応はせず、相談窓口とする。連絡先は「要覧・名簿」に掲載。**会員名簿の住所表記**は個人情報保護のため、字と番地は表記しないこととした。

連絡先 **事務局** **相田康宏宛て** ご相談連絡は何でも。0467-43-6337 yaita1947@nifty.com

事務局だより 就任半年 相田康宏

私は早起きで、朝 5 時には目覚める。夜寝るのが早いから自然そうなる。まず朝風呂に入る。難しいことは考えない。たとえば、今日から気温が上がり初夏の陽気になると言っていた昨夜の天気予報を思い出す。そして、何を着ようか、冬の間ずっと使ってたジーンズを洗おうかなど考える。それからベランダから見える外の雑木林を眺める。この時期、外はもう明るく新緑が眩しい。パソコンを開き、天気予報、ニュース、メールと読んでいく。寝るのが早いから、夜の間に入ったメールは朝見るのが習慣になっている。早朝出すメールには、「朝早くからお騒がせします」と入れることにしている。事務局を拝命してからは湘紅会関連メールが多く入る。現在、湘紅会会員は 107 名いらっしゃるが、そのうち 97 名の方がスマホを含めたメール・アドレスを保有されている。新型コロナウイルス騒ぎで外出を控えるよう要請される昨今、このパソコン・メールというのは誠にありがたい。家にいながら会員の皆さんと連絡相談することができる。写真を送ることや受け取ったメ

ッセージを転送することも含めたいの用事がこなせる、本当に便利な文明の利器だ。現況下、つくづくそれを痛感している。一方で事情があってパソコンを使っていない方もいらっしゃることを忘れてはいけない。会員の皆さんすべてに連絡を徹底することが事務局の仕事である、それを自らに戒めている今日この頃である。

各部会の会員随想 （活動報告に代えて）

万歩会

私の万歩会

青木平衛

万歩会も再来年には 300 回を迎えるそうですが、僕自身も正確に数えたわけではありませんが 100 回近く参加していると思います。その中で特に思い出に残っているのは貸切りバスでの尾瀬や上高地のトレッキングです。特に尾瀬旅行（H18/6/8）では快晴に恵まれ湿地に咲く水芭蕉の群生を楽しんで尾瀬小屋に一泊。翌日は打って変わって朝から冷たい雨。凍えながら歩き続け最後の登りの沼山峠では積雪の中を幹事が用意してくれた藁縄を靴に巻いて息も絶え絶えに登り切って檜枝岐バスターミナルにたどり着いた時の



ことなどを今でも懐かしく思い出しています。そのほか日帰りバスでの西沢渓谷（H21年5月）や天城越え「河津七滝めぐり」（H20年11月）なども忘れられぬ楽しいツアーでした。ハードな山道や急勾配の坂登りや磯歩き、季節の花々や周囲の景観を愛でながらの散策の後、酒好きの仲間が集まって飲むビールの美味さも忘れられません。コロナウイルスの終焉を待って皆さんと一緒に万歩会を楽しめる日が一日も早く来ることを祈っています。

酒悦会 古都鎌倉の酒悦 山崎信一郎

昨年先輩諸氏のお勧めで酒悦会に加えて戴き大変感謝しております。本会は季節折々の食彩と会員各位の蘊蓄あふれる語らいを肴に世界のお酒を味わう大変気さくな会です。時を忘れ宴が盛り上がると場所や料理を変え更なる語らいの機会に発展する場合もあり楽しさは尽きません。昨年は世話役の宮田様ご推奨の名店を訪ね、古都鎌倉でも評判の料理とお酒に触れる機会を堪能致しました。ランズ鎌倉の個性豊かなイタリアンと香り深いワイン、昭和レトロの趣と洋食が美味しいミルクホール、老舗居酒屋「いさむ」では各地の銘酒に和の食彩等々を味わい毎回夜が更けるまで語らいました。本年は当地地魚に秘伝の焼酎をと名店探し



に思いを巡らせましたが、大変残念ながら国難とも呼べる感染症拡大のさなか次回の話はまだ先の事と成りそう

です。政府の外出自粛要請が続く中、リモートでのネット宴会が好評ですが、酒悦会はあくまでリアルな内容にて無事感染症が終息したあかつきには改めて名店企画を練り直しご案内いたしますので皆様奮ってご参加ください。

(写真はキハダマグロ)

ゴルフ部 芙蓉での交流 津森信也

湘紅会ゴルフ部の方々とは、芙蓉 C C で毎週のように戦と舌戦を繰り広げているが、悔しいのは、岡崎さん、芝崎さん、倉上さんがホールインワンを達成したことであろう。お陰様で、銀座アスターで豪華中華をご馳走になったが、小生はいまだにゼロ。ただし、15番と17番で2打目を入れてのイーグルはあるが、これでは何にもならない。17番は倉上さんが同伴者だが15番の時は他のメンバーとのプレイ。他にはロンドンでも2打目を入れており3度の経験だがホールインワンでないのは残念至極。もう一つは、3番ホールでのナイスショット。

我ながら芯を喰ったドライバーだと思ったが、右から飛んできた燕のような鳥を空中で直撃してしまった。芝崎さんと倉上さんが可哀そうな燕(?)を埋葬してくれた。そのホールは



文字通りバーディーを取っただけで、気が動転していたのか定かに覚えていない。最近ではコロナ禍の中で家に逼塞しているが、一日も早く達成してホールインワン・

クラブ仲間入りし、銀座アスターに招待したいものだと思念している。(写真は芙蓉1番の桜)

唄会 ギター弾き語り挑戦 古谷隆

仕事から離れ、毎日がフリーになった或る日、散歩の途中で「ギター弾き語り教室」の看板が目に入りました。弾き語りには前から興味を持っていたので、その足で教室を訪れ、先生の授業内容を聞きました。話も弾んで、その場で入門しました。息子が鎌倉でギター工房を開設、記念に私のために製作してくれた第1号作品が眠っていたので、それを使うことにしたのです。現在も週一回レッスンを1時間受けています。発声練習、コード練習に励んでいます。若い頃と違い、指も思うように動かさず苦労しております。月一度、鎌倉小町にあ



る、スナックバー「りんどう」での唄会に15年ほど前から参加して懇親を深めています。この唄会の場で、一日も早く、弾き語りができるよう、鋭意練習に取り組んでいる今日この頃です。ちなみに、ものにした曲目は、古賀政男作詞作曲の「影を慕いて」と抒情歌「ふるさと」です。(写真：ご長男作のギターと)

湘遊会(旧新企画部) 私の楽しみ 田中リカ

2013年の社友会ビアパーティーに出席し、国分社長NOWに2ショットの写真を撮られた事がきっかけで100人以上の会員がいる湘紅会に入会しました。ゴルフ部、酒悦会、囲碁部、唄会、万歩会があり、万歩会に入会、月に一回歩く会は、毎回20～30人が出席しそれは、それは楽しい時間です。90歳を超えて全く年を感じさせないダンディな松本さんをはじめ、70歳、80歳代の若者達？が同じ釜の飯を食べた仲間として、今まで会った事も無い方々と同じ話題を語り合うことができます。



私は昭和34年丸紅飯田入社、運保部輸入課、社長は市川忍氏、ご子息洋一郎氏、河野洋平氏は大卒の同期生です。乗馬部に籍を置きゴルフも覚えましたが、竹橋に移り、あのロッキード事件の年の12月に出産のため退社、2018年に湘紅会は進化し、美術鑑賞、歌舞伎鑑賞、落語会が加わりました。殆ど女性一人の出席ですが、各部会の催行日を待ち遠しく思っています。部会は家族も出席OKなので、時には娘も一緒に出席しています、週に5日、老人介護の仕事をしていますが、ケアの方達と同年齢の方が山、坂を1万歩、元気に歩きながら、会社にいた時の話、海外出張、家族、スポーツ、車、外国の様々なお話を！今の若者達より何倍もステキですよ。そして、一汗かいた後は、お決まりのビールで乾杯！娘もおじさま達の元気に驚き、お友達のように、楽しく仲間にならせて頂いております。新型コロナウイルスの今、4月の小石川植物園、5月のヨットハーバーそして、市川團十郎襲名興行、ロンドン、ナショナルギャラリー展も中止残念です。新型コロナウイルスの収束を願って！
(写真：万歩会と湘遊会合同・横浜美術館ルノアール展で)

囲碁部 囲碁に纏わる日本語 高橋邦雄

今回は、4000年の歴史を持つ囲碁から生まれた、日常に使う日本語を紹介したいと思います。

八百長 江戸時代に八百屋の長兵衛がズルして囲碁に勝ち続けたのが、バレて、そこから、八百屋の長兵衛--八百長と言われるようになった。

駄目(ダメ) 囲碁で、駄目を詰める、とは自分の首を詰めるごとく、遣ってはいけない、初心者によくある間違いで、本来は、無駄な目(石)の事です。

一目置く 囲碁は、上手の人に、黒石を何個か置いて打つことが出来る、ハンディ戦です。自分より強い人に、一目でも、二目でも先に置くことから、相手を敬う意味です。

白黒つける この言葉は、説明の要ないほど、人口に膾炙されていますが、囲碁は、白石が上手で、黒石が下手です。どちらが強いか白黒つけよう(はっきり)との意味。

布石(ふせき) ある戦略を実行する前に、布石を打つと使いますが、囲碁でも、序盤に打つ布石が上手な人が強く、弱い人は、なぜここに打ったのか(布石)がわかりません。

捨石(すていし) 19目×19目の陣地で、一目でも多い方が勝ちます。途中経過は関係なく、強い人は、弱い石を捨石に(犠牲に)より大きな陣地を手に入れます。サラリーマンでも、捨石にされた人は、沢山いますね。

目論見(もくろみ) Projectの目論見とか使いますが、囲碁で勝つことは、相手より一目以上領地が多いこと。従って戦いの最中、優勢か劣勢か冷静な見極めが大切です。目論見により攻守を決めるのですが、これが囲碁で一番難しい技術・才能、これを正確に出来るの人が有段者です。

岡目八目 当事者より第三者が客観的に判断できる、打っている人より、脇で見ている人(岡目)が八目先を読むの例え。目は、碁盤の目の意味。岡は傍とも書きます。

会員だより



北鎌倉駅

「2020年～新型コロナに怯える80才」

左右津国男

新型コロナウイルスは、世界に蔓延し続けています。世界の人々は2020年という年を“新型コロナの年”としてこれからも長く忘れることはないでしょう。日本ではオリンピック開催が延期になったことの方が一時は話題になりましたが、今思うとなんとピンボケの騒動だったかと思います。

12月末に中国・武漢で新型コロナが発生し感染との報道に敏感に反応した人は世界中誰もいなかったようですから仕方がないでしょうが、それにしても我国（政府のみならず国民全員）ののんびりとした対応は何だったのでしょうか。今になって政府の対応をあれこれ言っても始まりません。外出を控えるよう緊急要請が出ていまだに湘南などには県外の車や人が繰り出している現実では、日本人は行儀がよいとの自賛はあたらなないでしょう。嫌な予感ですが我国のコロナ危機はまだまだ続くのではないのでしょうか。

新型コロナに感染すると高齢者の死亡率が高い。ましてや高血圧などの持病があればもっと致死率が上がるといわれます。私も昨年80才になりましたが腎臓が悪く人工透析を受けています。コロナに感染すればイチコロでしょう。そんなことから遅まきながら真剣に“終活”のことを考え始めました。大

した財産もないのに遺言は残しており、墓も建てました。その他に何があるのかと考えます。孫から「おじいちゃん左右津家はどんな家柄だったの？」と聞かれたことを思い出しました。父は52才で私が高校生の時病気で急死したため我が家のルーツなど聞きだしていませんでした。母も亡くなり家財も整理され過去帳や家系図のようなものは見当たりません。ただ先祖をたどるものとして菩提寺に残る左右津家埋葬者の記録のようなものが見つかりました。その他からもいくつかの資料が見つかりおぼろげながら我が家のルーツは見えてきました。私の兄が第52世になる古い家だということです。こんな機会でなければ調べもしなかったでしょうし、孫子に伝えることもできなかったでしょう。こんどは自分自身の今日までの生きざまをまとめて残しておきたくなりました。

私はずぼらで日記をつけたこともなく、昔の記録は残っておらず、詳しいことは何にもまとまりません。ただ、以前本屋で“自分史年表”という白紙のページに年毎に自分の出来事を記入する本を見つけて購入していました。それに思い出すまま出来事を記入し、会社で使った手帳が何年か残っていたのでそれから拾い出して記入してみました。なんと豊かで多彩な人生だったのかと我ながら感動しました。もちろん湘紅会での多くの方々との交友の思い出もよみがえり、この80年間悔いのない人生を送れたことを感謝しています。

お互い新型コロナ感染に気を付けながらこの難局を乗り越えて、又みんなで集まり楽しく語り呑む日が来るのを静かに待ちましょう。

「されど、ゴルフ」

坂本仁司

歩くことは人の基本的な運動ですが、自分で打ったボールを追いかけて歩くゴルフは「されど、ゴルフ」です。湘紅会ゴルフ部に加入して、芙蓉カントリークラブでプレーして免疫力の維持向上に努めているゴルフとの出会いと、その後の遍歴です。1970年安保改定を前にして学生運動が盛んな学生時代は、学園封鎖のため大学の授業が全て休講となり、通学できない期間が長く、ノンボリの体育系学生（体育会航

空部で地方空港の空をグライダーで飛行していました)としてクラブ活動以外はある時間があり、近所に住むゴルフ部の後輩から勧められゴルフクラブを握りゴルフを始めました。

OUT DATE ()										IN BIRTHDAY (T-S-H) 年 月 日													
HOLE	G I	G II	P A R	S S I K A						H D C P	HOLE	G I	G II	P A R	S S I K A						H D C P		
	BACK	REG	BACK	REG	A	R						BACK	REG	BACK	REG	A	R						
1	364	354	360	350	42	51	60	6	5	9	10	396	384	383	371	4	52	60	6	5	10		
2	327	304	327	304	42	51	60	6	5	3	11	359	337	352	330	4	52	50	6	5	4		
3	302	286	302	286	4	52	60	6	5	15	12	342	327	335	320	4	51	60	6	6	16		
4	412	400	381	369	42	41	40	8	7	1	13	175	148	172	145	3	41	40	4	5	14		
5	160	139	150	129	3	41	53	4	23	13	14	530	502	530	502	5	62	60	7	26	2		
6	360	339	344	323	4	42	60	6	6	7	15	346	322	340	316	4	51	55	56	65	8		
7	141	127	125	113	3	42	30	6	4	17	16	143	129	143	129	3	42	40	23	63	18		
8	536	518	536	518	5	62	60	7	7	5	17	340	321	340	321	4	42	60	5	7	6		
9	405	384	394	373	4	52	60	6	55	11	18	433	410	433	410	4	63	60	6	5	12		
OUT	3,007	2,851	2,919	2,763	35	40	43	43	45		IN	3,064	2,880	3,028	2,844	35	44	48	49	47			
BACK TEE - REGULAR TEE										HANDICAP													
MARKER'S SIGNATURE										NET SCORE													
PLAYER'S SIGNATURE																							

(最近の芙蓉のスコアカード)

1971年丸紅に入社し、大阪本社、東京本社を経験して初めての海外駐在で1978年10月31日のハロウインの日にニューヨーク・パンナムビルに米国会社に着任しました。米国駐在を機会に学生時代に齧ったゴルフにも真面目に取り組むことを決め、早速マンハッタンのゴルフショップで当時人気のあったパワービルトのドライバーセットとリンクスのアイアンセット購入、シーズン最後の11月に米国会社ガルフマ会にデビューして、米国でのゴルフ活動を始めました。在米時、一番多くのバーディーを獲得したのは、1981年、ニュージャージー州のフィドラーズエルボーで5バーディーを取りました。1996年に英国駐在となり、アイルランドや、スコットランドのリンクスコース、ヴィジターに厳しい、ミューアーフィールドもラウンドできました。

生涯ベストは1999年9月に初めての川奈・富士コースで39+38=77でしたが2007年6月葉山国際・ダイヤモンドコースで夫婦仲間でリラックスした効果あり、34+41=75と更新です。初めてのホールインワンは、1998年9月今は住宅地になった柏ゴルフクラブ13番135yds、9番アイアン。更に2008年6月葉山国際・ダイヤモンドの12番120yds、8番アイアンで二度目を達成しました。記録を付け始めて1,000ラウンドは2005年5月の三田2

7、2,000ラウンドは2014年7月の葉山国際、2,500ラウンドも今年2020年4月の葉山国際でした。

新型コロナウイルス感染が流行していますが、このウイルスに負けないようにゴルフでしっかり歩くことも含め免疫力の維持向上に努め、目標として芙蓉カントリーで3,000ラウンドの達成を目指したいと思います。

「私の応援団回顧」

豊中 和雄

私の自宅の書斎の机の前には今でも大学時代の応援団の団旗の小さなレプリカがある。古くなくてもボロボロになっても取り外しはしない。時には、私に元気を与えてくれる不思議な団旗である。

その応援団は、他のスポーツ競技とは違い、特に技術も何も身につかない集団であり、そこに大学の貴重な4年間の身を預けた奇妙で不思議な集団であった。

スポーツ競技は、技術と心を磨き、相手と戦い、勝利を目指すものである。しかし、我が応援団には「我々の勝利」という言葉はどこにも無く黙々と他人を応援し、ただ、ただ、愛校心という気持ちに酔いしれているものであった。当時の他の学友達は、「何にも役に立たない事をどうしてやっているの」と私の行動に不思議がっていたがそれは、当然であったと思う。その応援団は、私にとって、どうしてそんなに魅力的であったのだろう。まず、応援団への私の原点は、私自身が何も



特技がない不器用さ、一種の人としての“弱さ”からの脱却、そして“強さ”への憧れだったと思う。

(写真は若き日の雄姿)

応援団なら声を出さずれば、何かやれるという単純な期待だったのではないかと思う。

その集団にのめり込んだのは、「応援」とは「理屈を超え、心で動ける事」を行動とし、重んじる事であった。心さえあれば、他人を助け、競技者と一緒の位置になれ、共有出来、私も強い人間になれるという目覚め、つまり、自らの価値に目覚めた事だったと思う。

応援団の行動している事は原始的な動物達と同じ起源を持ち、それを人間に独特な身体の動きと心を用いて楽しく型を完成させて、あの明治・大正時代の純粋な夢と同様の会話が出来るという事であった。つまり、心と向き合う事だけで他の競技者と対等に付き合える事である。その為には、不器用でも、自分が弱くても、他人への愛、その愛が、他人又は競技者に通じ合える為に、相手も認める人としての魅力を作る、飾らない本当の強さを作る、そして、自分としての輝きを出せる事がこの応援団では出来るという事であったと思う。いわば、人間道場だった。誰かが言った“強者”は“勝者”ではない、“弱者”は“敗者”ではない事を学んだ気がする。

私の学生時代から、言葉や文字、ITに頼る事が多くなった頭でっかちの人間は、思考に精力を集中しすぎ、独特な身体心地よい心ある会話を忘れてきていると思う。このような中に「利他の心」を持って、その思考を柔らかく解きほぐし身体と心の価値ある融合を支える「バカ」な集団が、心ワイルドなインテリ応援団だったと信じている。

昔も今も、学生応援団という名のもと、厳つい服装や神聖な学生服等を仮装し、見栄っ張りの右寄り集団として活動している団体、グループがいるが、あれは、真の応援団ではない。全く、別の団体である。

古い人間かもしれないが、常に謙虚で、今は、消え失せそうになっている義理・人情・粋な男を忘れない日本人でありたい。今でも、私の机の前の団旗がそれを教えている。

湘紅俳壇

令和二年初夏

うぐいすの声に惹かれて窓に寄り

電車来て満開の花散らしけり

つつじ燃え遊歩道行く足を止め

(伊賀山欣也)

ゆったりと時告げる鐘春麗

菜の花にうずもれてゐる過疎の村

春光に照葉樹らの目覚めかな

(原知廣)

明け易し無限にあつた持ち時間

王朝の紫は今藤棚に

(岡崎誠之助)

湘紅会入会 丸紅OBORGで、神奈川県在住の方、どなたでも入会お待ちしております。事務局へお問い合わせください。

(連絡先・2頁に記載)

あとがき

外出自粛の疲れを癒し、交流を深めようと、多くの方々に寄稿を依頼しました。お願いした翌々日から続々原稿が届き、締切より半月早く全て到着、6月予定を早め、5月発行となりました。面白く読み応え十分で、タイミングの良い会報となりました。皆さまのご協力に感謝しています。健康管理が一層大切です。散歩など体を動かしましょう。暖かくなり、短時間の日光浴を始めました。体が温まり、免疫にも良さそうです。

2020年5月5日

編集 酒井尚平